



健康調査のため住家を巡回する救護班

全国で初めて「特別警報」発令

平成25年9月15日から16日にかけて近畿地方に接近した台風18号の影響によって、全国で初めての「特別警報」が京都府に発令されました。この豪雨により、福知山市を中心に大きな被害が発生したことから、舞鶴赤十字病院の救護班を派遣し、巡回診療を実施しました。

救援物資を搬送

平成26年8月16日から17日にかけて、停滞前線と暖湿流の流入の影響により、近畿北部や東海、北陸など広い範囲で激しい雨が降り、福知山市では市街地が広範囲に冠水し、多くの住宅で床上・床下浸水の被害が発生しました。

京都府支部では、災害発生翌日の18日に、福知山市役所に緊急セット6箱36セットを搬送し、被災された方へ支援を行いました。



被災地域にて救援物資を引き渡す支部職員

健康管理の支援に医療班派遣

市内の多くの住宅が浸水被害を受けた福知山市には、各地から多くのボランティアが復興支援に駆け付ました。

大きな被害を受けた地域では、真夏の暑さの中、ボランティアと地域住民が協力して家屋内の泥かきなどの後始末をされていたことから、作業中の方々の健康管理を目的に、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院から医療班（医師・看護師・事務職）を派遣しました。



被災地域を巡回する医師・看護師